



# ぽかぽか

## ～ 退院時共同カンファレンス ～ 入院から自宅へ向け、医療と介護の切れ目のない連携



病気の治療や栄養確保などのため、自宅へ退院してからも、胃ろう（お腹に通したチューブから栄養を摂る）や、痰吸引、酸素療法、バルンカテーテル（尿の管）など、医療的な処置、管理が継続して必要な患者様を対象に、当院では退院時共同カンファレンス（退院時共同指導）を行っております。

このカンファレンス（会議）は、入院中の主治医、専任の退院支援看護師、病棟看護師、リハビリ療法士、医療ソーシャルワーカー等と、自宅で医療や介護を担う、訪問診療の医師、訪問看護師、訪問薬剤師、介護サービスの担当者、ケアマネジャーなどが集まり、患者様の病状や治療の経過を共有するとともに、退院したその日から入院中と同じケアが受けられるようにすることを目的に、開かれています。

今回は、自宅へ退院後も、胃ろう、痰の吸引、日常生活全般の介護が必要な85歳男性の事例をご紹介します。このカンファレンスは、病院側及び在宅側合わせて14名が集まり、新型コロナウイルスの感染予防に配慮し、病院の広い講堂で、窓を開けて換気を図りながら開催しました。

まず、病院主治医と看護師が病気になってから現在までの経過について説明を行い、それに対し、訪問診療の医師や看護師、薬剤師から質問を受け、次いで介護サービス担当者から生活ケアの内容、医療ケアに使用する物品の確認、ショートステイや福祉用具などの詳細、活用できる社会資源の利用方法などが、詳しく打ち合わせされました。患者様ご本人は参加できませんでしたが、ご家族が2名同席、ケアマネジャーが傍らでカンファレンスの流れを説明しながら、退院後の不安が少しでも和らげられるよう努めました。

患者様は、5月末、家族の待つ住み慣れた家へ退院し、退院した日から福祉用具で整えられた療養環境で、訪問診療や看護を受けながらの生活が始まっています。

今後も、私たち医療ソーシャルワーカーとケアマネジャーは、多職種との退院時共同カンファレンスを通し、在宅生活を希望する方の退院支援及び居宅介護支援を、切れ目なく提供できるよう、更に取り組みで参りたいと思います。

在宅医療や介護のことで、分からないことがあるときは、遠慮なくご相談ください。



新型コロナウイルスの感染予防が継続されるなか、インフルエンザを予防する季節が近づいて来ました。

今回は、双方の感染症の症状を、ぽかぽか編集委員がインターネットより情報検索し掲載いたしました。あくまで一般的な情報としてご覧いただきたいと思います。



## 新型コロナとインフルエンザの比較

	新型コロナウイルス	インフルエンザ
症状	高熱や肺炎など	高熱・頭痛・関節痛など
流行時期	季節性は不明	冬に多い
潜伏期間	1～14日	1～2日
発熱	平熱～高熱	高熱（38度以上）
咳	◎	◎
咽頭痛	○	◎
息切れ	○	✕
だるさ	○	◎
関節痛・筋肉痛	○	◎
頭痛	○	◎
鼻水	△	○
下痢	△	○
味覚・嗅覚	○	✕
感染経路	飛沫・接触感染	飛沫・接触感染

新型コロナウイルス、インフルエンザの感染症を防ぐため、『新しい生活様式』、**特に3つの密（密閉・密集・密接）**を常に意識し、こまめな手洗いやアルコール消毒、マスク着用を心がける生活を送りましょう。



## 編集後記

日ごとに秋も深まり、木々の色づきが鮮やかな季節となりました。

今号のぽかぽかは、「退院時共同カンファレンス」と、「新型コロナウイルスとインフルエンザの比較」について掲載させていただきました。

引き続きこまめな手洗いや3密を避ける習慣、インフルエンザ予防接種など、できる対策をしっかりと取り、これから迎える冬に備えましょう。

（脇田・山野・高島・中壘）



### ★ ご意見・ご連絡先 ★

社会医療法人 恒貴会 協和中央病院  
医療福祉支援相談室  
発行責任者 青柳 利之

〒309-1195  
茨城県筑西市門井1676番地1

TEL 病院代表 0296-57-6131  
居宅介護支援直通 0296-57-7205  
医療福祉相談直通 0296-57-7230  
（休日・夜間 090-6935-3337）

FAX 0296-57-4676  
URL <http://www.kyowachuo.jp>  
Eメール [renkei@kokikai.com](mailto:renkei@kokikai.com)

